



相模女子大学・相模女子大学短期大学部
夢をかなえるセンター 連携教育推進課
Sagami チャレンジ【糸島プロジェクト】からのお知らせ

2020 年度 糸島プロジェクト

活動報告

相模女子大学×福岡県糸島市





1. 本プロジェクトについて

(1) はじめに

(2) 「糸島プロジェクト」について

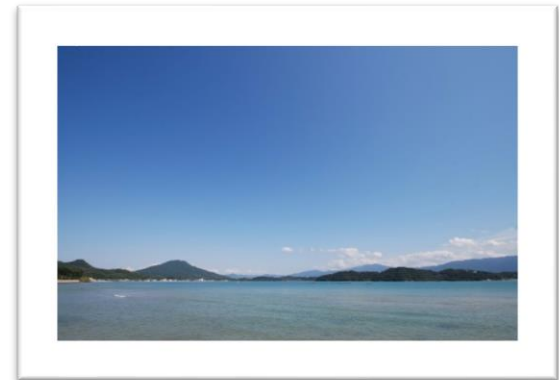


2. 活動の流れ

3. インタビューのまとめ

(1) 活動の軌跡

(2) ZOOM での活動について



4. 糸島の魅力

5. インタビューを終えての感想

6. お世話になった糸島市の方々のご紹介

1. 本プロジェクトについて

(1) はじめに

私たちは「女性の働き方」をテーマに掲げ今年度活動をしました。

例年は二回の糸島訪問を経てインタビューをするのですが、今年度は新型コロナウイルスの影響でオンラインのみでの活動になりました。メンバー同士の対面が叶わず会議やインタビュー等は ZOOM や SNS を活用して行いました。

メンバーは1年生～3年生までの計6人でなかなか日程が合わなかったため夜に ZOOM を開いて会議することもしばしば…。

ですが、そんな中でも隙間時間を活用したり、改善点や反省点を共有しあったりしながら活動を進め、最終的にはしっかりとしたインタビューの形を作ることが出来ました。このような状況下でも臨機応変に対応することが出来、より多くの可能性を感じたと共に自身のスキルアップにつながりました。

直接会わずとも、オンラインを活用して多くの方と繋がりが持てたことを私たちメンバー一同は誇りに思います。

(2) 「糸島プロジェクト」について

「糸島プロジェクト」は学生が福岡県糸島市で暮らす人や働く人に直接インタビューすることで女性の多様な働き方を調査・研究するものです。そしてそこで生じる課題や解決策を模索し、社会における女性、または自分自身の人生形成（生き方）における気づきや考え方をもち、自らの進むべき道を見つけ出す人になることを目的として1年を通して活動します。

しかし、今年度は新型コロナウイルスの影響で糸島へ訪問することが叶わず、ミーティング・インタビューは全て ZOOM を用いてリモートで行われました。



2. 活動の流れ

活動の軌跡

2020,10,14	説明会	
2020,11,11	第一回 ZOOM ミーティング	(顔合わせ・これからの進め方)
2020,11,26	第二回 ZOOM ミーティング	(役職決め・やりたい事)
2020,12,1	第三回 ZOOM ミーティング	(活動内容について)
2020,12,9	第四回 ZOOM ミーティング	(アップする内容について)
2020,12,16	第五回 ZOOM ミーティング	(内容について)
2020,12,19	紹介文確認、提出	
2021,1,8	対面→ZOOM ミーティング	(インタビューについて)
2021,1,19	第六回 ZOOM ミーティング	(アップ内容について)
2021,2,5	第七回 ZOOM ミーティン	(インタビューについて)
2021,2,19	第八回 ZOOM ミーティング	(インタビューについて)
2021,2,24	インタビュー	
2021,2,25	インタビュー	
2021,2,26	インタビュー	
2021,2,27~3,15	インタビュー内容・仕事紹介アップ	
2021,3,12	第九回 ZOOM ミーティング	(感想発表)

(2) ZOOM での活動について

ZOOM でのインタビューは連携教育推進課の方でホストをしていただき、糸島市役所の方・インタビュー参加メンバー・インタビューをさせて頂く方が参加し行いました。通信環境に関しては大きな問題はありませんでした。

各々自宅からの参加だったため、インタビューを終えての反省点がすぐに共有できないという問題がありましたが、次のインタビューが始まる約 30 分前に ZOOM に入室し前回の反省点・改善点について話し合いを行う事で対応しました。

また、インタビュー当日メンバー全員が揃う日が無かった件（ゼミなどによる欠席）についてはインタビュー後に LINE のグループでインタビュー内容・反省点・改善策などを共有することで対応をしました。

予定を合わせづらかった事はオンラインならではの問題だったと感じました。

インタビュー時に質問しているメンバー以外がミュートにするか否かという疑問がありましたが、より対面のインタビューに近づけたいためミュートをせずに相槌なども拾えるようにしました。

インタビューを終える際の方法については最後まで課題に残りました。インタビューさせていただいた方が先に退出される際に堅苦しい雰囲気になってしまった事が反省点です。

3. インタビューのまとめ

本年度は、六名の方々にインタビューをさせて頂きました。

糸島出身の方や島に移住された方など、皆さんの糸島との出会いも働く環境もさまざまで、多方面からの視点でお話を伺うことができました。メンバーが一人一回ずつインタビューでメイン進行を務め、Facebook での広報活動も行いました。

担当：リーダー 水木愛 「地域おこし協力隊」 舩野結花さん

地域おこし協力隊の舩野結花さんへのインタビューのご紹介です。

舩野さんは広島の地元大学を卒業後、東京の大学院で産業観光の振興や街づくりを学び、IT系ベンチャー企業やフリーでWEB関連の仕事に携わっていました。

糸島市が東京で開催した移住イベントをきっかけに地域おこし協力隊に応募し、糸島市に移住を決めます。

現在は「ブランド推進協力隊員」として、糸島市内の飲食店や工房を紹介する「糸島つながる市場」の運営や事業者の情報を発信しています。

舩野さんには主に、東京などの都会と糸島の違いについてお話を聞くことが出来ました。

舩野さんは、大学が自然に囲まれていたこともあり、自然への魅力を元々感じていたそうです。なので糸島に移住する際は、都会と自然のギャップはあまり無かったそうです。

しかし、夜はやはり都会と比べて暗いと感じていたそうです。

フリーの仕事を初め、あまり東京にいる意味を感じなくなった舩野さんは、自分で沢山情報収集をし、その中でも引かかる部分を感じなかった事や、他と比べた際に沢山魅力を感じた糸島に決めたということです。

糸島のお話をされている舩野さんはとてもイキイキしているように感じました！！

お仕事に関しては、大学で町づくりについて学んでいたため、町の役に立ちたいと思い地域おこし協力隊へ応募したそうで、糸島は特産品の多さがとても魅力だと感じ、広めたいとお話しされていました。

情報収集の大変さと大事さを伝えていただいたのと同時に、糸島の魅力を感じさせていただけました。

東京と糸島ではやはり人がだいぶ違うと言うお話が私の中で一番印象に残っています。

仕事をするにも、東京ではいい意味でも悪い意味でもとてもキッチリとしているが、糸島では方言を混ぜて話せたりと、フランクだとおしゃっていただきました。

確かに私は仕事をするということは、丁寧にキッチリと、という印象と考えしかありませんでした。しかし、今回の舩野さんのお話に加え、糸島の方と関わるにつれて、真面目すぎるのもまた良くないのかなと感じることが出来ました。

キッチリこなす事も大事ですが、楽しく仕事をする事もとても大切なのだろうと考えを改めることが出来ました。

今回私は舩野さんのお話を聞いて、「糸島…いいなあ」と改めてとても感じました(笑)

地元東京で働くという事しか頭になかった私がこんなにも糸島に魅力を感じる事が出来てとても感動しています。

担当 副リーダー 稲葉女久美

「ゲストハウス 糸島前原宿ことのは」野北 佳奈さん

野北さんは宮城県仙台市出身であり、専門学校を卒業後東京へ上京しました。「将来はゲストハウスを営みたい」という1つの夢を掲げつつ、そのまま別の縁のあった化粧品会社に数年勤められました。元々バックパッカーで海外に旅行をしに行くことが好きだったため、ボランティア活動や留学でも海外に行く機会が多かったそうです。その後、糸島市出身の旦那さんと出会い、ご結婚されて糸島に移住されました。まず移住する前に旦那さんと世界一周の旅をされました。旅の仕方もただ観光するのではなく、街歩きをしながら現地のことを学んだり、学生時代のボランティア活動で出会った外国の友達に会ったりして過ごしていたそうです。様々な場所に数週間滞在し、その文化や言語を学びながら交友関係を増やし、世界中に友達を作られたそうです。野北さんはものすごく英語が話せるわけでもなかったため、分かる単語を何個か繋げて話すだけやジェスチャーなどを利用することや、英語ができる旦那さんに頼りつつ外国人に自分の言いたいことを伝えていたそうです。しかし旅の途中で英語以外の言語と出会った際に、野北さんのお友達が偶然教わっていた先生に教わるのができたため、話すことを主に行い約3週間で習得されたそうです。この話をされた際に、私たちに「書いたりして覚えるより、実際に聞いて話すことが大事だよ」とアドバイスをしてくださいました。世界中を巡っていく中で、海外に素敵な場所があったらそこに移住しようと考えていらっしゃいましたが、色々考えていく中で最終的に糸島が素敵だと感じ糸島に移住することを決められました。移住されてから少し経ちゲストハウスを開き、移住されてから現在6年経ったそうです。

ゲストハウスの経営を始められたきっかけとして、ずっと経営したかったという思いがあるのと、世界中を旅している中で色々なゲストハウスに宿泊してイメージができたからだそうです。学生の時に親からは公務員になれと言われてきたとおっしゃっていましたが、ずっと自分は公務員になりたくないと思っていたため親の意見に背いていたそうです。ゲストハウスは国内のお客様だけでなく、海外からのお客様も来るため様々な国のことが学べて色々な人と出会えることが嬉しいとおっしゃっていました。他にも、日本人でもできるのかと驚かれたりすることもあったそう。国内のお客様の場合は、移住検討者が糸島に住むイメージをするために利用される方が多いので、経験をされているからこそ相談に乗ったりすることができるから嬉しいそうです。また今まででその検討者が移住を決めて報告して下さることがすごく嬉しかったと笑顔でおっしゃっていました。

ゲストハウスを始めて良かったことと辛かったことを話してくださいました。良かったことは、ゲストハウスを営みながらボランティア活動をしているそうで、街のゴミ拾いをしながら地域の方々と色々話しながらお互い助け合っていること。糸島の方は移住されている方が多いのでお互い助け合う中で仲を深めることが多く、野北さんも糸島に移住さ

れたときはカフェ巡りをしてあるお店に入り、そのコーヒーを好きになってコーヒーからいろいろ学び1人のファンとしてお店に通うことが多くなり、お店の方と仲良くなってたくさん話して糸島のことを学んだそうです。次に辛かったことは、ゲストハウスとなるとチェックイン時間があり、地方から来られる方だと遅い時間にチェックインされるため、なかなか来ないと不安になることや、夫婦2人で経営していると掃除や他の仕事も2人でしなければいけないため、人数が多いときは休む時間なく働くことがあるから大変だとおっしゃっていました。ただ辛いというよりは大変というだけで、大変なことよりも良かったことの方が多いのでほとんどないに等しいと話されていました。

野北さんはゲストハウスの経営だけでなく、個人でフォトグラファーとして素敵な写真を撮っておられ、女性中心に糸島でピラティスを教えています。フォトグラファーを始めたのが最近のことで、始めたきっかけはゲストハウスに来てくださる家族の家族写真が撮れるといいなと思い、元々写真を撮ることが好きだった野北さんはコロナのご時世で本格的に写真が撮れると思ったから。フォトグラファーとして活動している際に、お母さんにサプライズで撮りたいというお客様のお話をしてくださいました。そのお客様が一番印象に残っているとおっしゃっていました。

次に価値観についてのインタビューの答えをまとめます。まず旅人から刺激を与えられて、価値観を知った。「何事もしたいことは行動する」ということが価値観に繋がるのではないかとおっしゃっていました。そこで私たちにアドバイスをしてくださったことが3つありました。1つ目は、自分自身でできることは実践することや、色々挑戦してみることに。2つ目は、実際やってみると想像していたことと違うことがあるということ。3つ目は、自分のしたいことをしている人に話を聞いてみるのが良いということです。

最後に糸島のこれからについて話してくださいました。ゲストハウスがある筑前前原がもっと活性化したら良いと思っていることと、地域交流がすごく大事だから糸島の方々はすごく温かく優しい方が多いということ。だからこそ地域での盛り上がりが良いそうです。

野北さんはインタビューの最後に、「色々やってきて最終的に今やっているゲストハウスにたどり着いたけど、過去にしてきた色々な経験が今に繋がっているから、全て何一つ無駄なことはない。」とおっしゃっていました。

担当 広報 足立枝穂

「森とコーヒー。」山田沙織さん

山田さんのインタビューを通して、自分達でやりたいことは何かを考え、「森とコーヒー。」を開こうと決断するのは、色んなことに挑戦されていてすごい事だと感じました。

山田さんは、暖かい所に住みたいということで糸島移住したいと決断したそうです。山田さんが営む「森とコーヒー。」を訪れるお客さんは、多くの人が糸島に住みたいと話されているそうです。

山田さんは、Instagram や Facebook などを活用して情報発信をしています。情報を求めるお客さんの関心度に合わせて発信する媒体を変えたりと工夫されているそうです。山田さんが情報発信をする際に重要視している事は、上記に書いてある事と写真の写り方が統一されるようにする事だそうです。私は、その話を聞いて情報発信において写真の統一感にまで気を付けることも大事なのだと思いました。

また、山田さんのコーヒー豆についてもインタビューさせていただき、コーヒー豆の選び方や香りなど色んなコーヒー豆があるのだと驚きました。コーヒー豆を選ぶ上で何を大切にすればよいかという質問に対して、焙煎度によって酸味が強くなったり、果実身が強くなったりすると教えていただきました。コーヒー豆は、はじめ周りに赤い果肉がついていてその中にある種の所を焙煎して挽いてできたコーヒーを飲みます。

浅煎りだと苦みが少なく、果実が持っていた酸味が強く残っている状態になるそうです。また、深入りすると果実が持っていた酸味が焼けて抜け、豆が持っている美味しさそのものがぎゅっとしまつてすっきりとした味わいになると教えていただきました。

私はコーヒーが苦手だったのですが、お話を伺って自分に合ったコーヒーを見つけてみたいと思いました。山田さんに頂いたコーヒーは、私のようにコーヒーが苦手な人でも豆の良い香りがして酸味が少なくとても飲みやすいと感じました。

山田さんの「森とコーヒー。」では、自分に帰ろう、森と帰ろうというテーマで、少量を丁寧に焙煎していて、新鮮な状況でコーヒー豆を販売しているそうです。また、都会に住んでいる人に仕事疲れなどを癒すために日々の癒しを提供していらっしゃいます。

山田さんのお店は、お店以外にもオンラインでコーヒー豆を販売しています。

そのように様々な分野に進出し自分達で何か挑戦するお話を沢山伺って、私自身も変われるのではないかと思うようになりました。

今は、厳しい状況で糸島へ行くことはできませんが、落ち着いたら糸島に行って「森とコーヒー。」を訪れたいと思っています。

担当 制作 矢野本子

「Itoshima Heart Nuts Factory〜いとナッツ〜」 福島美和さん

糸島市大入でピーナッツバター専門店を営んでいらっしゃる福島美和さんにインタビューをさせていただきました。まず初めに、福島さんのプロフィールをご紹介させていただきます。福島さんはIT・ベンチャー・金融企業に約20年務めた後、先に個人事業主になった旦那さんに感化され2006年に糸島に移住されました。昨年7月に国産ピーナッツ（九州・沖縄産）を使用し無塩・無糖・無添加のピーナッツバター専門店直売所をオープンされました。現在はフリーランスとして委託事業を行いながら「Itoshima Heart Nuts Factory〜いとナッツ〜」を運営されています。

インタビューでは、お仕事のことや移住のお話を沢山伺うことが出来ました。

いとナッツをオープンされたきっかけは先に個人事業を始めた旦那さんが楽しそうに見え、人とつながっていくのが目に見えて私も「このままでいいのか」という疑問を持ったからとお話されていました。

今を楽しまない！と思い立ってからの行動力にとっても驚きました。

一般企業に就職することの魅力とはという質問に対しては一般企業に就職して周りの方からの刺激と、社会人としての基盤を作れた点はものすごく良かったし大事なことだと思うとお答えしていただきました。最初から起業するのではなく、新卒一年目は大切な時期だしその時にしかできないこともあるとお話されていました。

また、事業を始めて、今は働き方が自由だから「どうにでもなる」から自分という「ブランディング」を持ちつつ、自分がどこでもやっていけるという自信と力をつけることが大切だと思う。とお話されていました。

一般企業を経て個人事業を始められた方の生の声を聴くことが出来るととても貴重なお話でした。

糸島の魅力については「糸島マジック」といわれるくらい素敵な場所。中心地から車で40分くらいで通勤できる距離である事、海も山もある事、空気がまず違うし人もすごく良い、食べ物もおいしいと熱弁していただきました

来たらわかる！価値観も変わると仰っていました。糸島が魅力的な場所という事が伝わって来てもっと行きたいという気持ちが強くなりました！

まだ将来が分からないという私たちにバイトもインターンも経験して後に役立ったこともあった。怖がらないで興味のある事に飛びついて目の前にあるやりたいことをやっていたらその道でも他の道でもやりたいことが見つかるよ！学生のうちにしか出来ないことも沢山あるからいろいろな体験をしてください。人生いろいろあるから「流れに身を任せて」。まずは土台を学ぶ、企業を使ってやるくらいの勢いで学ぶことが大切だと素敵なお言葉をいただきました。

担当 制作 村吉恵梨

「地域おこし協力隊」 中村那美さん

2021年2月24日、福岡県糸島市で地域おこし協力隊として働いていらっしゃる中村那美さんにインタビューをさせていただきました。

まず初めに、中村さんのプロフィールをご紹介します。

中村さんは糸島市出身で地元の大学を卒業後、就職と共に東京に出て、銀行員として2年間勤務しておられました。その後、地域おこし協力隊として糸島にUターン。「水産業活性化協力隊員」として、鯛や鯖など糸島の魚の情報発信で活躍中しています、

「上京して変化した考え方などはありましたか?」といった質問に、東京に出てたくさんの人達と関わる機会が増えた中村さんは、「こんな考えの人もいるんだ!あんな人もいるんだ!」と知ることができたそうです。そのことから、小さな事でもその人の個性や人の多様性を受け入れて接することが出来るようになったとのこと。

また、地元を離れて気づいた糸島の魅力についてもお話して頂きました。学生の頃は電車の本数など都会にはない不便さを感じることもあったそうですが、都会に出てみると澄んだ空気や綺麗な海など、今まで見ていた景色が当たり前ではなかった、それらが気づかないうちに癒しとなっていたことに気がついたそうです。

いつも近くにあったものを離れてから客観的にみる事で、見えてくる美しさや有り難さがあるのだとインタビュアーである私たちも学ぶことが出来ました

そして、このプロジェクトのネックとなる中村さんの「理想の働き方」についても話を伺いました。

女性は男性とは異なる、結婚や育児に加えて出産などといった女性ならではのイベントがあり、どうしても仕事ができない期間ができてしまう。そういった面からも女性に優しく、子育て世代が働きやすい環境があることが大事だとお話して頂きました。現在中村さんは、前職とは異なり、在宅でできる業務やいろんな場所で働くこともあり、比較的時間の融通が効くのでとても働きやすく今の職場環境が自分に合っていると感じているそうです。理想とする働き方と今の仕事がマッチし、そのように働いている中村さんはとても素敵でした。

ここでは書ききれない程の沢山のお話をお聴きすることができ、メンバー皆とても勉強になり有意義な時間を過ごすことができました

担当 制作 大嶽こなつ

「カキ小屋住吉丸」 筒井裕三子さん

私はカキ小屋住吉丸でカキの商品を開発されている筒井祐三子さんにインタビューさせていただきました。

筒井さんは高校を卒業後事務職などのお仕事を複数経験されたのち、妹さんの影響やご自身も料理に興味があったということから 20 代半ばに調理師の免許を取得されました。その後大型スーパーの調理現場に勤務され、糸島で漁を営む筒井秀和さんと結婚。そしてカキ小屋をスタートしてから 15 年以上、現在はカキを使い様々な商品を考案されています。

インタビューでは、お仕事のことをはじめ沢山のお話を伺うことができました。

カキの商品を出すようになったきっかけは、お客さんの「美味しかったよ」という言葉が嬉しかったからとお聞き、あたたかいお話にもほっこりしました。商品を開発する際には、他県のものも参考にしながら糸島の食材を使って自分なりの商品を模索。どうしたら美味しくなるかということを考え、絶対に美味しいものを作るために周りの人の意見も取り入れながら考えているそうです。筒井さんの一押しを伺った際に、「全部自信はあります。特にアリオアリオが美味しくて、アヒージョにもパスタにもできます。」と笑顔で話されていたのがすごく印象的で、お客さんに喜んでもらいたいという筒井さんの思いがとても伝わってきました。

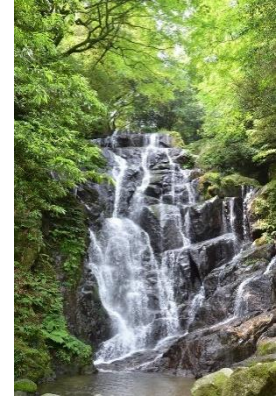
また、男の子 2 人のお母さんとしての子育てと仕事の両立についてのお話も伺い、子育てにおける周りの協力の重要性を改めて感じました。女性の働き方については、「経済的な自立も大切であり、そのためには自分の得意なことを生かせる仕事に就くのが良い」とおっしゃっていました。確かに家計を支える親、そして一人の社会人として、しっかりと自分の力で収入を得られるようになる必要があると思いました。

そしてお仕事についての考え方など、人生において大切なこともお話ししてくださり、中でも「仕事も考え方次第で辛いかわる」という言葉に深く納得しました。私も将来筒井さんのように前向きな気持ちで仕事に励みたいと思います。

他にもここには書き切れないほど沢山の素敵なお話をお聞きすることができ、私たちメンバーにとってとても有意義な時間となりました。糸島を訪れ、筒井さんの作ったカキの商品を食べるのがとても楽しみです。

4 糸島の魅力 ～いとしマジック～

糸島には海・山・川などの美しい自然が数多くあります。桜井二見ヶ浦をはじめ、立石山・白糸の滝などの観光地には例年多くの観光客が訪れています。また、糸島の空気はとても澄んでいて綺麗な星空がよく見えます。



豊かな自然の恵みにより、牡蠣や鯛などの海産物はもちろん苺やキャベツなど、沢山の特産物があります。そのため、産地直売で新鮮な食材を安く購入することが出来、それらの食材を使った美味しい料理を味わうことが出来るのも魅力の一つです。



インタビューさせて頂いた方は皆糸島の移動のしやすさについてお話しされていました。渋滞することもなく、出勤にも車で30分ほどしかかからないので、スムーズに移動することが出来て楽だとお聞きしました。そして、市街地である博多からもさほど遠くなく、約40分で糸島の中心部まで行くことが出来ます。

インタビューさせて頂いた方の中には糸島に移住された方も多く、地元の方々との繋がりについて話されていました。糸島の方々には移住者を快く迎えてくれ、相談すると親身になって聞いてくれるそうです。このような住民同士の繋がりや温かな雰囲気も糸島の大きな魅力の一つです。

糸島には魅力が
いっぱい！！



5. インタビューを終えての感想

メディア情報学科 3年 水木愛 担当 リーダー

私は昨年度に引き続き、2年目の継続参加をさせて頂きました。

昨年度は糸島の方と初めての交流で、人生観や生き方などを聞き、とても充実した1年となりました。そして今年度、リーダーとしてまた新たなメンバーとプロジェクトが始動。リーダーの経験があまりないので自分にできるのかという不安と、このコロナ禍でメンバーとすら対面ができないという状況に不安しかありませんでした。

しかし、メンバーや周りの方のおかげで、あまり気負うことなく活動ができたと思います。

肝心のインタビューでは、昨年とは違い、しっかりと「働き方」についてお話を聞くことができました。

私は都会に生まれ育ち、今後東京で働き進んでいくのだと考えていましたが、今回のインタビューと昨年のインタビューを振り返ってみて、移住も悪くないなと思い始めました。今まではとても狭い世界観で生きていましたが、糸島プロジェクトを通して、自分の知らない世界、これからの働き方から生き方まで180度考えを改めることができました。

継続したからこそ沢山の事を学べ、オンラインでの働き方が身につき、リーダーとしての経験もできたこと、自分から行動してよかったなと心の底から感じます。

英語文化コミュニケーション学科 2年 稲葉女久美 担当 副リーダー

私はこの糸島プロジェクトに参加する前は、働く女性についての考えは主に何でも効率的に物事に取り組めるような素晴らしい女性というイメージがありました。プロジェクトでの取り組み方についても、誰かにインタビューをすることや自分から連絡を取り事前にインタビューさせていただく前にアポイントを取ることをしたことがなかったので、全く何も知らない状態からのスタートで不安なことが多かったです。また、コロナ禍でグループのメンバーと直接会えない中でzoomを利用したオンラインで話し合いを進めて意見を交換し合い、より良いプロジェクトにするために試行錯誤を繰り返してインタビュー当日まで進み、3日間のインタビューを無事に終わることが出来ました。インタビュー後は自分が進行させていただいた方について、Facebookでインタビュー内容とその方の仕事紹介をさせていただきましたが、仕事紹介は実際に行けなかったため自分の体感で内容を書くことが出来ないで、自分で調べたことしか書けなかったことが難点でした。

しかしこの糸島プロジェクトを終えて、働く女性についての考えが変わりました。インタビューをさせていただいていく中で、家庭を支えている方が多く子育てしながら仕事をされている方もいらっしやって、その方たちのお話を聞いて自分だけで何かをするのではなく、誰かの支えがあり助け合うからこそ仕事と両立することが出来るということを学びました。また、働く女性は自分の意思があり様々なことを経験してきたからこそ今自分がしたいことを行っているという自分の道を進んでいく姿がとても輝いていて素敵でした。そこで私は、自分のしたいことを具体的に決め、まずはできることから積極的に取り組んでいくことと自分のやりたいことは最後まで諦めずに目指し続けることが大切だと学ぶことが出来ました。インタビューを受けたことで学んだだけでなく、グループで取り組む際に自分の意見を相手に伝えることや積極的に取り組むスキルを身に着けることが出来ました。

今まででのような生活では絶対に働いている方に直接自分の聞きたいことを聞く機会がなかったと思うので、プロジェクトを通して聞くことができ多くのことを学べたことが良かったです。実際にプロジェクト以外にも相談に乗ってくださり、このプロジェクトがあったからこそできた交流に感謝しています。コロナ禍だから何も出来ないのではなく、自分で出来ることを見つけるということも学びました。

日本語日本文学科 1年 矢野本子 担当 制作

今年度の活動は、前にも記載しましたが新型コロナの関係ですべて ZOOM を使用して行われました。異例の事態で自分自身もどうなる事かと思っていたのですが、さすが大学生。自分たちで夜など時間を見つけてミーティングをしたり、ラインなどで情報を共有したりしてうまく活動を進めることが出来ました。慣れない方法でしたが、一つのことを完成できたことが今は自信になっています！糸島の皆さんの深いお話も自分の人生に光を差し伸べてくれます。

インタビュー前は、女性は仕事についての数年で産休に入り家庭を築くという漠然としたイメージで、自分の就きたい職種であっても家庭との両立には限界があるという風に考えていました。ですが、インタビューした際に様々な働き方があるというお話を実際に伺って自分のやりたい仕事を作る・実現させるという行動力の大切さを感じました。

皆さん、このままでいいのかな。自分の地元を知ってもらいたい。と自分の仕事にやりがいと楽しさを持っていて、女性だからといって働き方が狭まるわけではないのだと思うようになりました。

すべて終えた後はとてつもない達成感と一皮むけた感がありました。

日本語日本文学科 1年 村吉恵梨 担当 制作

今回の「糸島プロジェクト」を終え、私は自分自身の成長を感じる事が出来ました。

私は遠い田舎の出で、大学を卒業したら、いつか来る親の介護のために地元に戻りそこで働くつもりでした。地元の外でやってみたい仕事もありましたが、親の元に居ることが妥当・最善であると考えていました。しかし、糸島の方々にインタビューをさせて頂くと、みなさんは様々なことに挑戦していました。地元である糸島を離れて就職し、その後糸島に戻ってきた方や、糸島へ移住・転職をされた方など環境を大きく変えた方がいらっしゃいました。その方たちのお話を聞くと皆さん共通して「以前やっていたことを無駄だとはおもっていない」とお話されていました。そういったお話を聞き、まだまだ先のことばかりに囚われずに、やってみたいことに挑戦しても良いのだと思えるようになりました。無駄になるからとやりたいことを諦めようとしていましたが、インタビューさせて頂いた方々のように過去の経験が将来に活かされることが実際にあるのだと知り、私の将来のビジョンが大きく変わりました。

このプロジェクトを進めていく中で、女性であってもどんな働き方をしてもいいのだと学ぶことが出来ました。出産や育児に関するお話も伺うことができたことから私の将来の働き方や暮らし方を見つめ直す機会となり、この糸島プロジェクトに参加できたことに嬉しく思います。

英語文化コミュニケーション学科 2年 足立枝穂 担当 広報

この難しい状況の中でインタビューを行うのは大変ではありましたが、みんなで一緒に助け合いながらプロジェクトを進めることが出来たので良かったです。また、私はインタビューの進行にとっても緊張しましたが、みんなのアドバイスがあっけり越えられました。

インタビューをさせて頂いた方の移住のきっかけ、情報発信やコーヒーのお話などもお聞きすることができ、とても興味を持ちました。

けれど、インタビューを終えて反省ばかりが残ります。質問の仕方などが良くなかったなので、このプロジェクトの反省点を踏まえて、今後失礼がないように気を付けようと思います。

このプロジェクトの目的である女性の働き方についても、家事や育児を女性だけがやるのではなく、男性もすべきであることや、産休や育休がとりやすい職場にするための環境や上司や職場の人たちの協力が必要であると強く認識するようになりました。

私は、このプロジェクトに参加してよかったと思います。なぜなら、インタビューをしていくと自分の中で変わったことがあると思うからです。私はインタビューをするのにとても緊張していましたが、みんなの支えがあっけり切ることができました。みんなと支え合いインタビューをすることで自分も変わったとおもいます。

管理栄養学科 1年 大嶽こなつ 担当 制作

今回のプロジェクトを通して大きく変化したこと、それは自分の将来に対しての視野の広さです。プロジェクト前、私は自分の将来について何となくですが今大学で専攻している分野の職業につき、地元あるいは県内で暮らすのだろうと考えていました。しかし、今回のプロジェクトで様々な人から沢山のお話を聞き、今まで考えもしなかった生き方や考えに触れ、自分の視野や未来の選択肢が大きく広がりました。特に、今回の活動で糸島という素晴らしい土地の存在と多くの移住者がいるという事実を知り、移住についても考えるようになりました。それは皆さんのお話を聞き、人生に決められたことなどは無く、多くの可能性があるということを実感したからです。

また、今回インタビューさせて頂いた方々は、自分の仕事や生き方に誇りとやりがいを持っていきいきと過ごされていました。そんな皆さんと出会い、好きなことに向き合い自分の本当にやりたいことは何なのか考え行動に移すことが、自分らしく生きることに繋がるのだと改めて思いました。

今年度はオンラインのみでの活動となりましたが、自らの進路について悩み真剣に考える大学生という時期にこのプロジェクトに参加することが出来、本当に良かったです。

6 お世話になった糸島市の方々のご紹介

本年度の活動を行う上でお世話になった糸島市の方々をご紹介します。

本年度の「糸島プロジェクト」は、新型コロナウイルスの影響により、糸島市を訪れることも叶わず、インタビューもすべてオンラインでの活動になりました。

こうした非常事態で、右も左も分からないような私たちを支えてくださった方が多くいらっしゃいます。

私たち学生とインタビューを受けて下さる方々をつなぐため、アポイントメントを取ってくださったり、たくさんの素敵な糸島の写真を提供して下さったりなど、何度も助けてくださった糸島市市役所の方々。

私たちの小さな疑問にも丁寧かつ熱心にお話して下さったり、私たちの将来についてたくさんのアドバイスをしてくださったり、お忙しいにもかかわらずインタビューを快く引き受けてくださった方々。皆様のお力添えがなければ、この「糸島プロジェクト」を成功させることは出来ませんでした。心より感謝申し上げます。

糸島市

東は福岡市、西は佐賀県唐津市、南は佐賀市と接し、福岡市の中心部天神から JR 筑肥線筑前前原駅まで 30 分ほど！都市近郊型の農業や畜産業が盛んで美味しい海と山の幸をいただくことが出来ます。

糸島市ホームページ <https://www.city.itoshima.lg.jp/>

糸島市の特徴 <https://www.city.itoshima.lg.jp/s007/010/070/010/060/20190109091424.html>



インタビューを受けて下さった糸島市の方々

「水産業活性化協力隊員」

中村那美 様

Facebook「糸島さかなっ隊」にて糸島の水産全般の情報を発信しています。漁協直売所糸島志摩の四季ではリアルタイムの入荷状況が見られます。

糸島市さかなっ隊 Instagram ↓

<https://instagram.com/itoshimasakana?igshid=fnx3mdicgthg>

糸島志摩の四季 HP ↓

<https://shimanoshiki.jp/>

「森とコーヒー。」

山田沙織 様

丁寧に焙煎された新鮮なコーヒー豆を販売されています。ネットでも販売中！

「森とコーヒー。」 Instagram ↓

<https://instagram.com/moritocoffee?igshid=1okmps72dipkc>

「森とコーヒー。」 公式サイト ↓

<https://moritocoffe.thebase.in>

「Itoshima Heart Nuts Factory〜いとナッツ〜」

福島美和 様

糸島市大入にある国産ナッツ（九州・沖縄産）にこだわったピーナッツバター専門店です。

Amazon でも販売をされています。「贅沢ピーナッツバター」で検索！

いとナッツ お店サイト ↓

<https://www.itonuts.com/>

いとナッツ Instagram ↓

<https://www.instagram.com/itonuts/>

「住吉丸」

筒井祐三子 様

糸島市加布里にある「カキ小屋住吉丸」さん。糸島カキや糸島市の名物天然ハマグリを提供されています。大粒のプリッとしたカキが味わえます。

住吉丸 お店サイト ↓

<http://kafuri.com/kaki/>

糸島ゲストハウス 前原宿ことのは

野北 佳奈 様

世界一周旅行を経験された後、筑前前原駅前にゲストハウス「前原宿（まえばるしゆく）ことのは」をオープンされました。

前原宿ことのは インスタグラム ↓

<https://www.instagram.com/itoshima.kotonoha/>

前原宿ことのは サイト ↓

<https://itoshima-guesthouse.com/>

移住インタビューページ ↓

https://ijuu-teijuu.pref.fukuoka.lg.jp/interviews/vol_48.html

糸島市地域おこし協力隊

舩野 結花 様

「ブランド推進協力隊員」として、糸島市内の飲食店や工房を紹介する「糸島つながる市場」の運営や事業者の情報を発信されています。

糸島つながる市場 Facebook ↓

<https://www.facebook.com/itoshima.ichiba/>

広報糸島サイト ↓

<http://kyushu.ebpark.jp/itoshima/koho200515/HTML5/pc.html#/page/1>